



Nihon Clinic

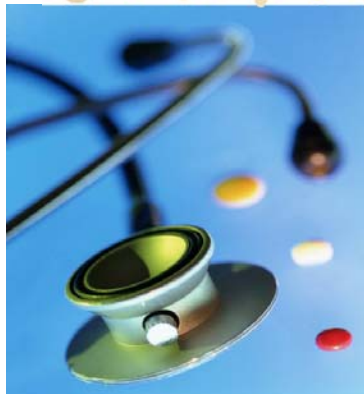
日本クリニック

November, 2014



今月の健康ニュースレター

◆◆◆ インフルエンザの予防接種について ◆◆◆



米国内の日本クリニック

CHICAGO

(847) 952-8910

NEW YORK

(212) 575-8910

SAN DIEGO

(858) 560-8910

Nihon Clinic

2010 S. Arlington Heights Road, Suite 101
Arlington Heights, IL 60005

予約: (847) 952-8910

内科: (847) 758-8080

小児科: (847) 640-5437

カイロ科: (847) 956-3250

ウェブサイトもご利用下さい。

Website: www.nihonclinic.com

E-mail: Chicago@nihonclinic.com



今年も寒くなり、ハロウィーンには雪も降りましたね。

皆様はインフルエンザの予防接種は済みましたか？

今年はまだ全米的にインフルエンザの発症例は少ないですが、当院では今のところ大人と子供が各1名、確認されています。

2年前はインフルエンザが猛威を振るい、昨年は比較的静かでした。

毎年インフルエンザは寒い季節になると現れますが、どれだけ流行るか、何時ピークをむかえるか、なかなか予想が困難です。

しかし変わらない事は、インフルエンザに対する一番確実な予防方法は予防接種を受ける事です。



今年も過去数年と同じように、一部の例外を除いて、生後6ヶ月以上の方には全員予防接種を受けることをお勧めしています。中でも、インフルエンザにより重篤な状態に悪化するリスクが高い方は、特に早めの接種をお勧めします。

【リスクの高い方】

- ・65歳以上の方 ・妊婦
- ・糖尿病、喘息などを含む慢性的疾患をお持ちの方



毎年、インフルエンザのワクチンはその年の流行株を予想して作られます。2年前までは3種類のウィルスを対象に作られましたが、昨年から4種類のウィルスを対象とするワクチンが使用開始になりました。

過去の予防接種にはA型が2種類、B型が1種類の3種のウィルス株が含まれていましたが、4種類のウィルスを含むワクチンはA型、B型が各種2種類含まれ、合計4種のウィルス株が含まれています。

●接種の方法●

- ・9歳以上の方は 1回接種
- ・生後6ヶ月～8歳までのお子様は、場合によっては2回接種が必要

※通常、予防接種を打ってから抗体が出来るまで約2週間かかります。家族の方がインフルエンザに罹ってから予防接種を打っても、すぐに効果は期待できません。

●予防接種の種類●

今年当院で扱っている予防接種の種類を説明します。

◆注射のタイプ/4種株

9歳以上は1回の接種、9歳未満は場合によっては2回の接種が必要となります。

3歳未満は予防接種の量が半分になります。



◆FLUMIST(フルーミスト)/4種株
注射ではなく、鼻から注入するスプレー状のワクチンです。

【接種対象】

- ・2歳(当院では6歳)～49歳の慢性疾患を持たない方対象

【注意事項】

- ・生ワクチンのため、妊婦・肺、心、腎疾患を持っている方、糖尿病の方は対象外
- ・鼻の粘膜から吸収されるため、鼻づまりのある方は吸収が悪くなる可能性があり、従来の注射をお勧めします。

- ・小さなお子様は、注入した後すぐに鼻から出してしまう可能性が高いので、当院での接種対象は6歳以上としています。

◎今年のガイドラインでは、子供(2-8歳)の方には注射のタイプよりもFLUMISTの方が予防の効果が高いということが発表されています。当院でも過去に子供にFLUMISTを投与しましたが、小さなお子様は接種後すぐに噴出してしまふことが多いようです。吸収されたかどうか不安になる方も多いので、6歳からのお勧めにしておりますが、希望であれば6歳未満でも接種可能です。



裏面に続く



Nihon Clinic

日本クリニック

November, 2014

今月の健康ニュースレター



◆◆◆ インフルエンザの予防接種について ◆◆◆



◆高容量インフルエンザワクチン / 3種株

65歳以上の方を対象とした、通常のインフルエンザのワクチンより容量の多い予防接種の使用が、近年一般的になっています。

【接種対象】

- ・65歳以上の方

65歳以上の方は、インフルエンザによる合併症の発生率が高く、インフルエンザによる入院例の約6割を占めています。又、最近のデータによると、従来のワクチンでは、65歳以上の方には抗体が十分に出来ないことが判明し、又抗体能力が低下するのも早いようです。抗体が少ないと感染に対する予防力も弱くなるため、近年高容量が多く使われるようになりました。昨年から当院でも、65歳以上の方は高容量を使用しています。



【注意事項】

・高容量ワクチンを使うことにより、抗体が多く反応するとのデータが出ていますが、副作用もやや強めのようです。

米国内の日本クリニック

CHICAGO

(847) 952-8910

NEW YORK

(212) 575-8910

SAN DIEGO

(858) 560-8910

Nihon Clinic

2010 S. Arlington Heights Road, Suite 101
Arlington Heights, IL 60005

予約: (847) 952-8910

内科: (847) 758-8080

小児科: (847) 640-5437

カイロ科: (847) 956-3250

ウェブサイトもご利用下さい。

Website: www.nihonclinic.com

E-mail: Chicago@nihonclinic.com



※注意※

お子様で2回接種が必要な場合は、出来る限り同じ場所で同じ種類のワクチンを接種することをお勧めします。(製薬会社により、製造過程に多少の違いがあるため。) 特に、Flumistと予防接種の組み合わせはお勧めできません。



自分の感染を予防するだけでなく、周りの方への感染を防ぐためにも毎年インフルエンザに対する予防対策をしっかりとることが大切です。

